

エネルギーにしても食料にしても、危機に強いのが、小規模分散であり、地産地消なのだ。

日本の食料自給率は37%(カロリーベース)しかない。鈴木宜弘氏(東京大学教授)は「自給率80%で唯一コメに次いでまだ高いと思っていた野菜も種まで遡ると自給率8%( $0.8 \times 0.1$ )となる。同様に、農業労働力の海外依存度を考慮した自給率も考える必要が出てくる(九州大学磯田教授)。海外研修生の件は、様々な問題を惹起している。」と指摘している。

自然災害の多発など食料生産のリスクは高まっており、国内の生産基盤の強化がわが国にとって急務だ。

農業政策として、国民を決して飢えさせることがないように、政策の土台に高い自給を置くこと。そのためには欧米諸国にならって価格支持が不可欠だ。そして有機を主流にするという目標を掲げたい。環境や食の安全のみならず国民の免疫力を高める効果からも意味がある。

安定的食料基盤に必要なのは、「農地」、「人」、「種」だ。農地の存続やそのためにも生産者を増や

す、そして種子を守ること。

新自由主義を信奉するトップらにより、農林水産分野にも外資を含む企業に委ねる流れが推進されてきた。企業が志向するのは大規模化、画一化(=効率化)、労働集約化だ。これに依存する食料生産は気候変動や疫病のパンデミックが起きると、あっという間に供給危機が起きる。

食料の安全保障には、小規模農家がたくさんいて、多様な作物が生産されているという「多様性」こそが大事だ。またグローバルな流通や資本の移動ではなく、中心になるべきは地産地消であり、地域でお金を循環させることなのだ。その意味でも学校給食の果たす役割は大きい。

特にコメは主食であり、国家による手厚い保護が必要だ。農家が再生産できる価格を保証し、余剰米は十分なコメ備蓄に充てる。備蓄費用は軍事関連費用から見ればわずかなもの。一旦急あれば、備蓄を放出し、また、不足で苦しむ国には無償支援を行う、これが本当の意味で豊かな国というものではないか。(安田)

## ラウンドアップ広告 モンサント、偽りの広告で3900万ドルの和解金支払いと表示削除

2020年3月30日 sustainablepulse 他によると、ミズーリ州カンザスシティの連邦裁判所に提起された集団訴訟は、園芸用の除草剤ラウンドアップの広告に焦点を当てたものだ。

2019年2月原告リサ・ジョーンズ氏が率いる集団訴訟は、モンサント社がラウンドアップ製剤のラベルに、有効成分であるグリホサートは、植物にのみ存在する酵素を標的としているため、人やペットには影響を及ぼさないと表示を通じて虚偽の主張をしたとして提訴された。

2020年3月28日、モンサントは製品のラベルの変更を含む3950万ドル(約41億5,114万)の和解金支払いに合意した。(ここまで)

グリホサートは植物体内でのシキミ酸の合成に係るEPSPS酵素を阻害する。アミノ酸(トリプトファン、フェニルアラニン、チロシン)の合成に関与するシキミ酸が阻害されるとアミノ酸が合成されず、結果、これらのアミノ酸を含むタンパク質や代謝産物の合成も阻害されて植物体は枯死する。モンサントはEPSPS酵素は動物には存在しないので、人体には影響はないとしてきた。しかし、「人やペットには安全」とする表示の撤回と和解金の支払いとなった。裁定の論拠は情報が未入手なので、以下推測する。

まず、細菌にもシキミ酸経路がある。グリホサートは植物と細菌の両方でアミノ酸の生産に関与するシキミ酸経路を遮断する能力に基づいて、1974年

に除草剤として特許が取得されている。細菌を殺す能力から 2010 年に、モンサントは抗生物質としても特許を取得している。

グリホサートの抗生物質特性により、家禽、豚、牛の腸内細菌を破壊することが以前から示されている。腸内微生物叢のバランスの乱れは、家畜や人間の広範囲の消化器疾患を引き起こす。自閉症の人々は、腸の機能と腸内細菌の共生を乱したことがよく知られている。また GM 大豆を与えていたデンマークの養豚場では豚は慢性下痢に苦しみ、GM大豆を餌から取り除いた結果、豚は慢性下痢に苦しむことはなくなった。

次に、グリホサート製剤は補助剤として界面活性剤 POEA などが存在する。また AMPA のようなグリホサート代謝物が生じるが、POEA や AMPA は独自の毒性がある。POEA などの補助剤が一緒になるとグリホサート単独の毒性と比べて 100 倍以上毒性が強いことがわかっている。モンサントは主成分のグリホサートについてのみに照準を当てて安全性

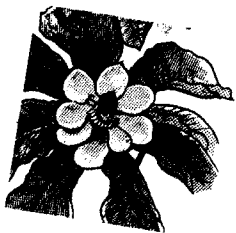
を主張し、実際に使用される製剤の毒性を隠蔽してきた。

なお、モンサントは過去にも虚偽広告の判決を受け、ニューヨーク市やフランスでは安全をうたう広告はできない。

1996年、ニューヨークで、モンサントのグリホサート製品のラウンドアップ除草剤に関し、「ラウンドアップが生分解性で土壌に蓄積されません」「安全で人や環境への有害な影響を引き起こすことはありません」といった一連の安全性に関する広告が、虚偽かつ誤解を招く広告と判決された。

2009年、フランスの最高裁は、ラウンドアップの主な成分のグリホサートは、欧州連合(EU)が環境に危険だと分類しているため争われていた裁判で、「生分解性できれいな土壌を残す」という広告を虚偽広告と判決した。

日本では「生分解性できれいな土壌を残す」と堂々と広告が打たれている。(安田)



表紙絵解説—ホオノキ「厚朴」

【】内は中医学における生薬名、『』内は方剂名

モクレン科の落葉高木ホオノキは山や公園、庭木として親しまれ、また、その葉は朴葉味噌などに用いられ、真っ直ぐ伸びる幹は建材としても使われてきました。そしてその樹皮は生薬の【厚朴】コウボクとなります。

『神農本草経』中品に収載され、苦味・辛味、温性で、脾、胃、肺、大腸に帰経する行気薬に分類されます。気を巡らし湿を除く働きから食べすぎなどによる腹満、腹痛、下痢などに【蒼朮】ソウジュツ【陳皮】チンピなどを

配合した『平胃散』ヘイイサンが用いられます。配合する生薬により様々な効能を発揮し、便秘には【大黄】ダイオウ、【枳実】キジツなどと配合した『大承気湯』ダイジョウキトウが用いられます。なお、中国ではカラホウの変種の樹皮が使われ、日本ではホオノキが使われて【和厚朴】ワコウボクと呼ばれることもあります。カラホウとホオノキは、どちらもマグノリア属の植物でよく似ています。日本の民間療法では樹皮を煎じて腹痛、吐き気、下痢などに用いられてきました。(山田)

食政策センター・ビジョン 21 の機関誌「いのちの講座」は不定期刊です。(年間6回の発行予定)。

ビジョン 21 の会費 5,000 円/年(活動支援と購読)

購読のみ 3,000 円

送金方法は、郵便振替口座:00290-7-56537

口座名義=ビジョン 21

発行責任者 安田節子

★ビジョン 21 事務局

〒227-0046 横浜市青葉区たちばな台 1-14-39

Tel.& Fax. 045-962-4958

E-mail:vision21@ps.catv.ne.jp

.....  
<http://yasudatasetsuko.com>

コロナで公共施設閉所のため印刷ができず、発送が遅れました